

# 花の日 こどもの日礼拝

2019.6.14(金)  
つのぶえ保育園 (石田)



イエス・キリストは、どんな時も、小さな命を、大切にされ、愛されました。また、世の中で弱い立場にいる人、貧しい人、悲しみの中にいる人、心に悩みを持ち苦しんでいる人、病の中に在る人に寄り添いました。物言えぬ小さい存在を慈しみ、何より先に手を差し伸べられました。どんな人にも、神様の愛を伝え、彼らに生きる希望と力を注がれました。このイエスさまの、深い愛に満ちた生き方を忘れることなく、同じように倣い、表わし続けていこうという人々の願いにより、1856年、アメリカのレナード牧師が、6月の第2日曜日の朝、幼な子達の心身の健やかな成長を願って、小さな命を感謝し、祝福する礼拝を行いました。それから1870年には、マサチューセッツ州の教会において、花の美しさや清らかさ、子ども達の純粋な心とその個性の素晴らしさを重ね、幼な子ひとりひとりを祝福する「シャロンのバラの礼拝」が行なわれました。そして、その両日が同日だったことで、その後に『花の日・こどもの日礼拝』として、全世界のキリスト教会に広まりました。(今年は6月9日でした。)

つのぶえでは、今週、少しずつ、皆が持ち寄った色とりどりの、様々な花々を園内に飾り、その美しさや香りを分かち合いながら過ごし、今朝は、全員で礼拝をしました。鮮やかで立派に咲き誇るお花、道端に咲いていた可憐で美しい野の花…それぞれに素敵で多くの花たちを静かに見つめながら、心温まる時を皆で過しました。自らに与えられたそれぞれの命を、ひたむきに精一杯、生きている、一輪一輪の神様の御業の賜物達に、どれも比べようのない貴さを感じました。私達の生活の中にお花が在ることで、どれだけ慰められ、力を与えられ癒されているのだろうと、改めて感謝に溢れる想いがしました。明日には、枯れて散ってしまうかもしれないそんな儚い命であるのに、懸命に咲きながらまっすぐに生きている凛とした姿は、私達人間よりも素晴らしく、無欲で無垢で美しい存在であることを、しみじみ思いながら、お花と共にある毎日を、改めて感謝しました。

この「花の日・こどもの日」をお祝いし、ささやかですが、保育園より、お花をお贈りさせていただきますので、それぞれ御家庭に飾ってお楽しみくだされば幸いです。神様の深い御恵みと御想いによって、いつも人知れず生きている小さな花々の命を胸に、そして、戦いや飢えや病の中で、今この瞬間をも、痛み苦しみの中に在る世界中の幼な子達一人一人の上に、神様の平和と祝福が、豊かに速やかにありますように心よりお祈り致します。

以下は、今朝の礼拝で語ったメッセージです。子ども達が主人公の男の子になりきって、キラキラした瞳と明るい笑顔で、主人公の男の子になりきって、夢中で聞き入っていた様子が、とても可愛らしく、印象的でした。

『イスラエルの小さな町に、ルカというひとりの男の子がお母さんと住んでいました。ルカは神様が大好きで、いつもお母さんから神様のお話を聞きたびに、神様について思いを馳せていました。そんなある日、この町に神様の子どもであるイエスさまが来られることを知り、ルカは、仲良しの友達マルコと一緒に大喜びしました。そして、ぜひイエスさまに会いに行きたいとお母さんをお願いして、マルコと行くことを許してもらいました。いよいよ当日の朝、ルカはお庭に咲いている自分が大好きな花をプレゼントしたいとお母さんと相談をして、きれいにラッピングをしてそっと持って出かけました。マルコと一緒にイエスさまが来るという町の公園に行くと、大勢の人達が老若男女、集まっていて、小さなルカ達は大人達から邪魔だ！と弾かれてしまいました。けれどもルカ達はどうかしてイエスさまに会いたい、お花を渡したいと、前の方に行こうとジャンプしたり、何度も背伸びをしましたが、大人の大きな背中に阻まれ、中に入れてもらえません。入り込もうとするたびに叱られて、弾き飛ばされ…の繰り返しでした。ルカ達は泣きべそをかきながら、がっかりして、そのまま地面に力なく座り込んでしまった瞬間…、なんとということでしょう！驚いたことに、大人の足と足に大きな隙間で中央にいるイエスさまの所まで、まっすぐのトンネルが出来ていたのです。ルカ達は「ここから行ける！」と、元気を取り戻し、プレゼントのお花を抱えて、大人達の足のトンネルをくぐり抜け、ついに真ん中へ辿り着き、立ち上がりました。その途端、優しい笑顔で天を仰ぎ手を広げお話をされていたイエスさまの姿が目の前に！2人が思わずイエスさまに駆け寄ろうとした瞬間「こらっ！何をしてるんだ！」とイエスさまのお手伝いをしているお弟子さん達に突然、怒鳴られてしまいました。ところが次の瞬間「ルカ。おいで！わたしにお花を持ってきてくれたんだね」という優しい声が聞こえてきました。2人が急いで顔を上げると、イエスさまがニコニコしながら両手を広げていました。自分の名前やお花のことを、もうすでに御存知だったことに驚き、喜びながら、イエスさまの温かな笑顔に、思わず駆け出しました。イエスさまに優しく抱き上げられたルカは、マルコと共に幸せな気持ちに満たされました。それからイエスさまは、そこにいたすべての子ども達を抱き、神様に祝福のお祈りを捧げた後、弟子達と周りの大人達に向かって諭されました。(以下、ルカ 18:5-17より)『子どもたちを、わたしのところに來させなさい。止めてはいけません。神の国はこのような者たちのものです。』